

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月1日

その若枝は伸び、その美しさはオリーブの木のように、そのかおりはレバノンのようになる。－ホセア14:6

ホセアは確かに針葉樹の香りを知っておりました。彼は他の人々に対するクリスチャンの影響力について、レバノン杉をもって描いて見せたのです。それがもたらすキリストの印象は松の香りのようにあらゆるところに浸透するのです。人間の臭覚はもっとも繊細な感覚です。その感覚を通して、人は手に触れるところを超えて、さらには視覚の外にある何かの印象を得るのです。何も語る必要はありません。その香りが届くところにはその影響力が一面に広がるのです。それを隠すことはできません。キリストに根ざす人は、杉のように、見えないいのちの源であるキリストの香りを放ちます。私たちは聖霊の謙遜な美徳を醸し出します。それはオリーブとして描かれていますが、キリストの香りの影響だけが人々に何らかの感化をもたらすのです。キリストは隠されることはないのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月2日

その陰に宿る人々は再び、麦のように育ち、ぶどうのように花咲く。－ホセア14:7

果たしてぶどうの花について思いを及ぼす人があるでしょうか！その花は実に短い間しか咲くことがなく、散る前にもほとんど注目もされず、また注目される頃には実になっているのです。自然界には三種類の植物を見ることができます：花が咲いても実を結ばない植物；たとえば桃のように、その花と実の両方が目立つ植物；そしてぶどうのように、その花は目立たなくても、その実が尊ばれる植物、です。明らかにここでは、神はこの第三の植物を高く評価されています。

私たちは何としばしば、人の目にアピールする事柄、すなわち咲いた花を認められようとする誘惑に落ちることでしょうか！しかし御父は私たちをぶどうの枝として定められました。したがって、御父は私たちが実を結ぶことを何よりも求められるのです。

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月3日

わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。－ヨハネ15:2

今日、世のあらゆる訓練は生まれつきの人間の魂を発展させることを意図しており、人を独立させ、自尊心を得させ、機転が効く者とし、自己信頼を強固にします。この時代の人々は自分が他人に勝ることを好みます。これはまさにサタンの意図に合致するものであり、かくして人は自分自身のためにサタンのわざをなすのです。

神があなたと私のためになしておられる業は、ブドウ畑の農夫として、私たちを刈り込むことです。それは私たちの魂が気ままに肥大することを監視し、また対処することです。神はそれを刈り込まれます。一方において神は、私たちを御子のいのちによって生きる者へと導こうとされ、新しい誕生の際にそのいのちをインプラントして下さいました。一方において神は、私たちの内側で私たちが頼りとする、アダムを原罪へともたらした生まれつきの資源を枯渇しようとしてされます。日々私たちはこの二面を学ぶ必要があります。ひとつは内なる御子のいのちが湧き上がること、もうひとつは生まれつきのいのちによる生き方を監視し、それを死に渡すこと。それによって私たちは、世的な目で見れば、弱い者とされ、また無知な者として、「私には分かりません、神がご存知です。それで十分です」と告白するのです。どうか神が現代の魂の高ぶりから私たちを救い出して下さいますように！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月4日

わたしが弱いときこそ、わたしは強いー2コリント12:9

このパラドックスは真のクリスチャン経験の根幹に存在します。私はこのことを個人的な試みの過程において理解するようになりました。この経験において、ちょうどパウロの肉体の棘のように、私は解放を求める祈りに対して、「否」という回答を得たのです。それはあたかも小船に乗って川を渡る際に、川底から5フィートかそこら、水面に突き出している岩が邪魔となり、それが障害となっている光景が思い浮かびました。今、私のうちに疑問が生じています。すなわち、川底から5フィートもの岩が突き出している状況に立ち向かうべきなのか、それとも主によって川の水量を5フィート増加していただくことが良いでしょうか。パウロの訴えに対する神の回答は、「わたしの恵みはあなたに十分である」でした。もちろん、川の水量を増やしていただくことが良いに決まっています！かくして私の問題は過ぎ去りました。クリスチャン信仰にとっては、岩を取り除いていただくことが本質ではなく、深い川の流れに与ることが重要なのです！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月5日

触れた者は皆いやされた。－マルコ6:56

宮で祈っていたパリサイ人と収税人の出来事を思い起こしてください。パリサイ人は什一献金と奉げ物についての完全な知識を持っていましたが、彼の心から神に対する叫びが出ることはまったくなかったのです。「主よ、あわれんでください！」と叫んだのは収税人でした。この男から何かが神へと立ち上り、それはただちに神からの回答を得、イエスも彼を神によって義とされた者として認知されました。義とされるとはどのようなことなのでしょうか？それは神に触れることです。今日の貧弱な福音伝道の原因は、私たちが人々に対して救いの計画を理解させようすることにあり、それはほとんど実を結ぶことがないか、まったくないのです。どこで失敗してしまったのでしょうか？それはまさにここにあります。つまり私たちの心が神を見ることがないためです。私たちがその方へと捧げられた者とされていないのです。私たちは人々の罪あるいは神の救いを指摘しますが、彼らの真の必要は救い主ご自身であって、その方とお会いし、その方に触れることにあるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月6日

みな互いに謙遜を身に着け、仕え合いなさい。－1ペテロ5:5

御体は愛にあって自ら建て上げられます。何か特別の使徒がいて、御体から離れて立ち、それを何かの“事柄”とみなしつつ、外側から建て上げるといったことはあり得ません。私たちはキリストの教会を、何か私たち自身から離れて、私たちが仕えるべき対象であるかのように考える危険性があるのです。これは不可能です。私たちが御体のいのちに貢献する願いがあるのであれば、その中においてまず自分自身が服すること、御体から受けること、さらに仕えることによって、お互いのいのちの務めに与るのです。兄弟姉妹に対して服するより、神に服することの方が容易に感じられるでしょうか？ 次のことを覚えてください。絶えざる遜りによるのでなければ、互いに仕え合うことは不可能です。良かれ悪しかれ、私たちは御体の肢体であり、そこから退くことはできません。人に対立することは神に対立することです。兄弟たちから助けを受けることによって、私たちは他人を助けることもできるのです。仕え、また仕えられること。私たちは神の同労者であり、同時に神の建物でもあるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月7日

イスラエルの神、主が、こう仰せられるからです。『主が地の上に雨を降らせる日までは、そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくなるらない。』—1列王記17:14

私たちは世にあって神を代表し、神の真実を証明しまた表現する存在です。私たちの態度、言葉、行動は、すべての私たちの必要を満たされる方は、ただ神であることを宣言すべきです。それゆえ特に経済的な問題にあっては、それはきわめて厳粛にして、重要であるゆえに、私たちは人に依存することを真に放棄し、ただ神の全幅の明け渡しをする必要があるのです。もし私たちがこの点において弱さを抱えるのであれば、神はご自身が受け取られるべき栄光を受けることができなくなります。神の僕としての私たちは神の備えの豊かさを味わい、証明する必要があるのです。私たちは人々のために豊かな者として現れることを恐れるべきではありません。私はここで何かのフリをせよと言うものではありません。私たちは常に真実であるべきです。私たちは自分の経済的欠乏を人に対して隠すべきです。たとえ、それによって人々が私たちの状態は満たされていると結論したとしてもです。隠れたことを見ていくくださる方が私たちの必要を顧みくださり、その方は不承不承ではなく、「キリスト・イエスにある栄光の富に従って」私たちの必要を満たして下さいます。私たちは神に対してあえて問題を難しくしましょう。なぜなら神はご自身の奇跡をなすために、私たちから何らの援助も必要としないからです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月8日

深淵は深淵に呼ばわりー詩篇42:7

ただ深遠のみが深遠に答えることができます。表面的な浅薄さは深みに対して応答することができません。私たちの内側の深くに進展するもののみが、他人の深い必要を感知することができます。洪水に飲み込まれつつある人々を助けるためには、まず私たち自身が洪水を経験する必要があるのです。私たち自身が神の深い取り扱いを受けることがなかったとしたら、どうして人は私たちが得ているものを知ることができるでしょうか？私たちはあまりにも表面的に過ぎるのです。私たちは外面的には成長しているように見えるかもしれませんが、内側には何もありません。私たちが物事の表面を生きるだけであるのであれば、必要にある人々にとって少しは助けとなれるかもしれませんが、私たちが彼らに提供し得る真の幸いは逃げてしまうでしょう。私たちは彼らのいる場所にあって、彼らと出会うことができませんでした。パウロは自分の経験を14年間も封印しておりましたが、そのことによって人々はいかに多大の助けを受けることでしょう。神が私たちの内側深くで語るのを聴くとき、私たちが闇の中で経験する内側の宝を、試練にある人々に分かち合うことができるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月9日

その頭、その髪の毛は、白い羊毛に似て、雪のように白く、目はまるで燃え盛る炎、足は炉で精錬されたしんちゅうのように輝き、声は大水のとどろきのようであった。－黙示録1:14f

黙示録(正確には、啓示録)において神は、福音書とは異なる御子の側面を見せておられます。福音書においては御子は救い主としてですが、啓示録においては王としてです。前者は御子の愛を、後者においては御子の尊厳を見せます。屋根裏部屋においては主は自ら僕として腰に布を巻かれました。パトモスにおいては戦いのために胸当てを巻いておられます。福音書においては彼の目はペテロをやさしく見つめました。啓示録においてはその目は燃える炎です。福音書ではそのみ声は優しく、各自の名を持ってご自身の羊を呼ばれ、その御口からは恵みに溢れる言葉が出されました。啓示録ではその御声は川川の流れる轟音のように恐ろしく、その御口からは諸刃の剣が主の敵に向かって突き出ています。私たちがイエスを単に神の子羊また世の救い主として知るだけでは十分ではありません。私たちは彼を神の王、神の裁き主として知る必要があるのです。私たちが救い主として彼を知るとき、私たちはその胸にもたれて叫ぶことでしょう、「その愛は何と素晴らしい！」と。私たちが彼を支配者として知るとき、私たちはその御足の元にひれ伏して叫ぶでしょう、「おお、何と恐るべき方！」と。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月10日

キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。－エペソ2:8

座るとは実際にどのようなことを意味するのでしょうか。私たちが歩いたり立ったりするとき、全体重が私たちの膝にかかります。しかし座るならば全体重を椅子かベンチが受け止めてくれます。立ち歩く時、私たちは疲れを覚えますが、座ればしばしの安息を味わいます。歩くことや立つことにより、私たちは多大なエネルギーを消耗します。しかし座ればリラックスします。なぜならすべての圧力は私たちの筋肉や腱に掛からなくなり、私たち以外の何かに掛かるようになるからです。霊的事柄においても同じです。座るとは、私たちの全体重、重荷、自分自身、未来、そしてすべての事柄を、主ご自身の上に置いてしまうことです。すべての責任を主に負っていただきましょう。そしてそれらを自分自身で負うことをやめましょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月11日

彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出さない。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。」-使徒13:2

主に仕えることを学んでいない人は主の働き人となることはできません。御霊の声がバルナバとサウルを特別の働きのために召したのは、彼らが主に仕えつつ、断食をしている時でした。

そして彼らが応答したのは、その神聖な召命に対してであり、人間の必要に応えるためではありませんでした。彼らは人食い人種や首狩族の報告を聞いてはいませんでした。また彼らの同情心が哀しい幼児結婚の物語や、纏足の苦痛や、アヘン吸引の悲劇によってかきたてられたわけでもありませんでした。彼らが聞いた声は他でもない御霊の声だったのです。彼らは人間の叫びを聞いたのではなく、キリストの宣言を聞いたのです。彼らを奉仕へと導いたのはキリストの主権であり、彼らがそれを全うし得るのはただキリストの権威によるのです。

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月12日

わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買に行かないかぎりルカ9:13

イエスが「あなたがたが彼らの食べ物を与えなさい」と言われたとき、イエスは弟子たちがその備えしていたことを期待したのではなく、彼らが奇跡を期待することを願われたのです。しかしながら、私たちと同様に、弟子たちは安易な方法、すなわち信仰も祈りも必要としない道を選びました。彼らの解決策は「食べ物を買に行く」ことだったのです。それは弟子としてふさわしくない提案でした。それはパリサイ人や、サドカイ人にふさわしい方法でした。そこには何らの信仰も見られず、イエスに対する信頼もありませんでした。ヨハネの福音書が明らかにしているとおおり、彼らは自分のポケットの中身を気にしていたのです。彼らには十分なお金がありませんでした！

私たちは自分がなし得る事しか見ようとしません。私たちは神に対して目を閉じてしまい、その無尽蔵の資源を見ることができません。しかし神は私たちの基準によって測られるお方ではないのです。私たちに何がなし得て、何がなし得ないかを気にしてはなりません。神は私たちにいつでも奇跡を見せる機会を待っておられるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月13日

わたしはキリストと共に十字架につけられましたーガラテヤ2:20

「十字架につけられた」とは、私にとって何を意味するのでしょうか。私はその回答は群集がイエスに対して語った言葉に集約されると思います、それは「殺せ、殺せ！」です。神はキリストと共に十字架につけられることを単なる理論としておかれることはありません。たとえそれを何年間も唱え続けつつ、理論以上のものとなり得なかったとしても、です。私自身が十字架を経験的に知らないまま、何年間も語り続けていました。しかしある日突然、私、ニー・トシェンが主と共に十字架で死んだことを劇的に知ったのです。「殺せ、殺せ！」と群集は叫びました。彼らがイエスに向かってそう叫んだ時、彼らは意図せずして、また私に対する神の宣告を告げていたのです。その神の判決はキリストの中で成就されました。この事実の発見は、救いを見出した時と同様に、大きなインパクトを私にもたらしました。その発見により、私はしばしの間説教ができないほどに低くされたのです。それまでは説教することに私は燃えるような熱意を覚えていたことを告白しなくてはなりません。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月14日

あなたがたは、…きょう、主に身をささげよ。主が、きょう、あなたがたに祝福をお与えになるために。-出エジプト32:29

私自身を「死から生きた者」として神に差し出せ(パウロの用語)ということは、私自身のすべては神のものであることを認識を意味します。自分自身を神に捧げることは決定的な行為であり、それはイエス・キリストを信じるのが決定的であると同様です。ある日、私たちが自分の手を主に差し出す瞬間がおとずれます。そしてその日から私は自分のものではなく、主のものとされるのです。それはいわゆる伝道者や説教者になることではありません。ああ、なんと多くのいわゆる宣教師たちが、自分自身の生まれつきの能力を、神の御業のために差し出していることでしょうか。しかしそれは真の聖別ではありません。では私たちは何のために自分を聖別するのでしょうか。それは「キリスト教の仕事」のためではないのです。それは神の意志に対してです。神の御心である要求に従う存在として神の御意志をなすためです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月15日

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にあるのである-マタイ18:20

その前の節は、かなえらえる祈りについての素晴らしい約束を与えています。しかしその約束は条件付きです。少なくとも二人が、ひとつの心でいる必要があるのです。どうして彼らの祈りは答えられるのでしょうか？それは彼らふたりまたは三人は、「わたしの名の中に集ま」っているからです。すなわち、彼らはただ会うだけではなく、自ら集まっているのです(能動態)。ここに違いがあります。集まることは、単に自分によることではなく、それは神の霊によって促されることです。そして彼らは集まります。自分の必要のためではなく、神の御心を共有しつつ集まるのです。これによって彼らは主の名にあってひとつとされます。そしてその時、イエスは言われました、「わたしもその中にいる」と。その中で導かれ、啓示され、光をもたらされるのです。神を賛美します。それは約束ではなく、それは事実なのです！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月16日

しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ-ヨハネ 4:23

十戒は神への排他的礼拝の宣言によって開始されます。この神の御心の表現は、神の命令であるばかりでなく、神の願いでもあります。もし十戒が神の喜ばれることを示しているとするならば、荒野における誘惑はサタンが喜ぶことを見せているのです。両者において、それは礼拝することです。よって私たちは神とサタンが喜ぶことを有しているのです。しかし、私たちがどちらを選ぶかにより、天国か地獄に導かれます。礼拝は値のつけられないものです。サタンの目論見は神から礼拝を奪うことであり、神の民をある種の偶像礼拝へと誘うことです。偶像礼拝とは、神ご自身を差し置いて、何か他のものを礼拝対象とすることです。しかし私たちはただ神のみを排他的に礼拝する特権を有しているのです。

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月17日

永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。－ヨハネ17:3

人類はキリストを、その業においてではなく、その存在そのものにおいて拒絶しました。そして彼らはまた、キリストが何をなされたかではなく、キリストの存在とその本質を信じるように招かれています。「御子を持つ者はいのちを持つ」。キリストの業に対する評価は必要でありましょうが、重要な点はあなたが御子を持っているかどうかであって、救いのすべての計画を理解しているかどうかではありません。救いの最も本質は知識ではなく、キリストとお会いすることです。

間違った聖句によって救われているように感じられる人々があります！彼らは救いの道を示す聖句を語られておらず、したがってそれに基づいて救われることはあり得ないと感じられるのです！私は常々、人々を主にもたらし、救いを得させるのはヨハネ3章16節のような聖句であると思ってきました。しかし救いの第一歩として必要なことは、神と個人的に触れる経験であることを知るようになりました。よって神がその最初の大切なステップのために、私たちが用いるように選ばれる聖句が何であるのかは、救いの条件として問題とはならないのです。

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月18日

ひとりが死んだ以上、すべての者が死んだ-2コリント5:14

どうして神は私たちに対して自分が死んだと認めなさいと言われるのでしょうか。それは私たちが死んでいるからです。私が今2ドルポケットに持っていたとします。帳簿にどのように記載すべきでしょうか？1ドル95セントとか、2ドル50セントでしょうか？違います。帳簿に記載すべきは私のポケットにある分だけであり、それ以上でも、以下でもあってはなりません。簿記とは事実を記載することです。それはファンタジーではありません。神は私たちに偽りの帳簿を捨てるように言われます。私がいぜんとして生きているのに、自分を死んだと認めよと神は言われません。そのような知的作業にとって「みなしなさい」という単語はまったく不適切です。

神は私たちが簿記をすることを求められます。「私は死んだ」と記載する。そしてそれによって生きる。なぜでしょう。それは事実であるからです。主イエスが十字架にいかれたとき、私も主のうちに置かれていたのです。したがって私はそれを事実として取るのです。私は罪に対して死にました、しかしキリスト・イエスにあって神に対して生きているのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月19日

ある主の日のこと、わたしは“霊”に満たされていた-黙示録1:10

黙示録を学ぶ資格のある人は誰でしょう？私たちはヨハネ個人の物語の中に回答を見出します。彼らの最初の幻は出来事ではなく、イエス・キリストご自身でした。イエスの胸に横たわったヨハネは、自分を塵の中に打ち倒す永遠の主を見たに違いありません。そして「来るべき事柄」を見ることができたのです。まず最初にヨハネが見た幻を見ていない者はこの書を学ぶ資格はありません。なぜなら私たちが戦いのために備えられるのは、イエスご自身を見るときだからです。

この経験の前にもヨハネは主の愛を知っていました。今や、彼は主の尊厳を見ているのです。かつては哀れみ深い主としてイエスを見ていましたが、今や栄光の王として見るのです。私たちがまずこのように主を見ることなく、また主の足元に死んだように打ち倒されることがなくしては、来るべき事柄の知識を得ることは単に好奇心と自尊心を煽り、究極的には混乱と不信仰をもたらすだけになるでしょう。この書は主の戦いを宣言します。この書は主の王国を損なうすべての者に対する戦闘を告げます。よってこの書は私たちにイエス・キリストを御座の王として見せているのです。このような光景のみが真の兵士を作るのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月20日

わたしは掟の箱の上の一对のケルビムの間、すなわち贖いの座の上からあなたに臨み、わたしがイスラエルの人々に命じることをことごとくあなたに語る。-出エジプト25:22

私たちと神との交わりの根拠は何でしょうか？それは神の栄光です。ケルビムの陰にある憐れみの座において、私たちは神との交わりを得ます。しかもそれは「栄光のケルビム」です。そこにおいて、神の人類に対する裁きとともに、憐れみを見出すのですが、神の栄光が現れるのです。ただそこにおいて、かつそこにあつてのみです。神である方が、いかなる場においても憐れみを示すことができるのでしょうか？できません。ただ神の道徳的栄光が現される場においてのみ、ご自身の憐れみを示すことができるのです。神は憐れみの座をケルビムから切り離すことはできません。

罪深い人類を神との交わりに与らせることができるのはただ注ぎ出された血潮のみです。その血によってのみ、神はご自身の栄光を損なうことなく、憐れみを示すことができになります。すなわちご自身を否定することなく、人類と交わりを持つことができるのです。ゆえにキリストの血潮のみが私たちと神との交わりにとって絶対的に本質的なのです。私たちが憐れみの座で神と交わる時、私たちが見つめるのは尊い血潮ではなく、神の栄光です。幕は取り除かれていますから、顔の覆いなしに、私たちは神の栄光を見つめることができるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月21日

兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。-使徒9:17

私たちは何としばしば、自分が軽く考えている人々から助けを受けることが多いことでしょうか！目の見えないパウロがダマスカスに到着した時、神が遣わされた人物がなすべきことを告げる、と知らされていただけでした。最初は誰も来ませんでした。三日間盲目にあった後、ある者が到着したのですが、彼は単なる「弟子」に過ぎませんでした。ルカの記述から見ると、この単語はアナニアが献身的で真実ではあっても、一人の普通の兄弟に過ぎないことが分かります。彼には、将来教会にとって偉大な使徒として用いられるパウロに助けを与えるための資格など、何もなかったのです。

またアナニア自身にとっても、タルソのサウルの評判は彼を恐れるだけのものであったのですが、しかし彼自身の心からの神聖な奇跡の業を具体的に示す必要があったのです。彼の単純な挨拶によって、彼は他のキリストの肢体を認知しました。そしてひとつの御霊にあって、このふたりの男は、今や兄弟として、世界を揺り動かす影響力を行使するために定められた助言を与え、また受け取ったのでした。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月22日

この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、わらで家を建てる場合、おのおのの仕事は明るみに出されます。…なぜなら、かの日が火と共に現れ、その火はおのおのの仕事がどんなものであるかを吟味するからです。－1コリント3:12

重要なのは重量です。木、草、わらは安価なものであり、軽く、朽ち果てるものです。金、銀、宝石は価値があり、重量があり、永遠のものです。ここにパウロが意味することを見ることができます。神は単に成し遂げられた業を吟味するだけではなく、そこに用いられている材料を査定されるのです。そして確固とした業と表面的な業を分離されます。重量のある金属、神聖なご性質と栄光を表す金、神の贖いを示す銀、これらを神は尊ばれるのです。私たちが宣べることだけではなく、私たちの存在、神と共なる重さが問題とされるのです。本質的に重要なのは、「もっとも目立つ必要は何か？アイデアや資源はあるか？自分に何ができるか？」ではなく、「神の動きはどこにあるのか？キリストがおらえるところに自分もいるか？御霊の思いは何か？」なのです。私たちの業がそのような性質を有していれば、それは生き延びることができるでしょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月23日

私は、とこしえまでも、あなたに感謝します。あなたが、こうしてくださったのですから。私はあなたの聖徒たちの前で、いつくしみ深いあなたの御名を待ち望みます。-詩篇 52:9

時間の試みはもっとも過酷な試みです。しかし神を待ち望むことを学ぶことによるのみ、私たちは、自分が神の成就された真理の中に組み込まれていることを見るのです。神から得た息子を下さる約束を信じてから10年後、アブラムはもう待つことができなくなりました。アブラムはそれ以上待つことができなかつたのです。神が息子を下さることを知ったアブラムは、自分自身でそれを成就しようと務め、イシマエルを得ました。問題はアブラムの動機ではなく、彼の開始地点でした。彼はまだ自分が息子を得るために何かができると感じていたのです。そして事実そうであり、それをしたのです。86歳でしたが、彼にはその能力があつたのです。

さらに長い期間待たされることになりました。彼が100歳になって、「彼の身体が死んでも同然になり」(ローマ4:19)、もはや何もし得ないところまで至つたのです。そのような人、もはや神を喜ばせるためにまったく力がなくなつた人にこそ、イサクという人格において驚くべき恵みの賜物が与えられたのです。これは完全に神の働きであり、それは待つに値することなのです。再度私たちを通して神ご自身の御業が現れることは、私たちが人生をかけて人間的にもがくことよりもはるかに素晴らしいことです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月24日

このようにして、主の言葉はますます勢いよく広まり、力を増していった。－使徒19:20

使徒たちが働くにつれて、主の祝福は彼らの労苦の上に宿りました。私たちも彼らの足跡に従うならば、そのことをなすことができます。しかし私たちは使徒的な方法を適用するだけでは十分ではないことを理解すべきです。私たちが使徒たちのような聖別、使徒たちの信仰、そして使徒たちの力を経験していなければ、使徒たちのような実を得ることはできないのです。私はここで彼らの方法に価値がないと言っているのではありません。その方法には彼らと同じ結果を得るための十分な根拠があります。しかし私たちは使徒を超えた霊性が必要であるとか考える必要もなければ、使徒の試練に直面した時に失望することもないと知るべきなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月25日

あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。－1コリント3:16

御霊の内住の啓示は、不正なるコリントのクリスチャンに対して、パウロが与えた治療薬でした。彼らの必要は、今日の私たちと同様に、神が彼らのうちに住まいを得るという真理を把握することです。私たちの大多数にとって、神の聖霊があまりにもリアルではないのです。私たちは聖霊を、何か神の力-すなわち善行や、疑いを消す影響力か何かとしてしか、理解しておらず、それ以上ではないのです。私たちの思考においては、良心と御霊が多かれ少なかれ同一視されており、私たちが何か悪いことをしたときに、内側でそれを指摘し、良き行いへと導く「何か」としての理解しかありません。コリントのクリスチャンと同様に、私たちの問題は御霊の内住を得ていないことではなく、その臨在のリアリティに目覚めていないことです。私たちは私たちの心の中に住まいを得られたお方の本質的な聖を十分に評価することができないのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月26日

すると、御霊がフィリポに、「追いかけて、あの馬車と一緒に行け」と言った。-使徒8:29

神聖なる御業は神によって開始されます。働き人は直接的に神によって召されるか、あるいは御言葉や、メッセージや、環境をとおして間接的に導かれる必要があります。しかし何であれそれらは、人に対してご自分の御旨を明らかにする神の手段であり、他の声ではなく、神の声だけに耳を傾ける必要があるのです。いかなる手段にせよ、導きが明らかにされるのは、神が語られる時なのです。もちろん同労者たちの意見を無視することは間違っていますが、彼らの意見を直接的な御霊の証と置き換えて受け入れることも間違っています。私たちはキリストの体の他の肢体から独立して生きるべきではないことも事実ですが、同時に私たちはすべての指示は頭なるお方から来るべきことを決して忘れてはならないのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月27日

万軍の主はわたしたちと共にいます。ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。-詩篇46:11

私たちの人生はなんとヤコブのそれと似ていることでしょうか！神が私たちをお取り扱いになるまで、私たちは自分がヤコブよりもすぐれていると考えていますが、自分自身の物の考え方の歪みに気がつくようになると、私たちはヤコブの性格が自分自身そのものであることを認識するようになります。同時に覚えて欲しいことは、ヤコブの人生を虚無から有益性へと変えたのは、まさに神聖な恵みの力による以外の何ものでもなかったことなのです。

イシマエルもアブラハムの神を語ったことでしょう。エサウは多分にアブラハムとイサクの神によって取り扱いを受けたと言い得たかもしれませんが。しかし両者共に、それをなすことによって、単に過去を振り返るだけでした。彼らの経験は神を個人的に味わうことではなかったのです。聖書において、イシマエルあるいはエサウの神という表現はありません。しかしヤコブにとっては、また私たちにとっても、これでは十分ではありません。私たちの神は現在の避け所、現在の力なのです。モーセと同様に、燃える芝の前で神の言葉を聞く必要があります、「わたしはアブラハムの神であり、イサクの神であり、ヤコブの神である」と。そのような神との関りこそが、私たちの希望なのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月28日

あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。－コロサイ2:12

ある人々は埋葬こそが死のための手段であると教えられ、自分自身で死ぬことを努めています。私は特に強調して語りたいと思いますが、神によって私たちはキリストにあって死に、埋葬されたことを見るまでは、私たちはバプテスマを受ける資格はありません。水の中に沈められることは、私たちがすでに神の目には死んだ者であることを認めることを意味しているからです。そのゆえに私たちは証をするのです。神の質問は明らかかつ単純です。「キリストは死にました、そのキリストの中にあなたも置かれていました。今、そのことを告白しますか？」と問われるのです。私の回答はどうでしょう。「主よ、私はあなたが私を十字架に付けてくださったと信じます。私はすでに死んだこと、そして葬られたことを是と申し上げます」。神が私を死に渡され、葬られたのです。私がバプテスマを受けるのはそのことを公に証しするためなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月29日

いと高き神のもとに身を寄せて隠れ／全能の神の陰に宿る人よ-詩篇91:1

誘惑者の目的は、つねに私たち自身が何かをするようにさせることです。対日戦争の初期において、私たち中国人は数多くの戦車を失いました。また次の作戦を取るまでは、日本の兵器に対処することもできなかったのです。待ち伏せした狙撃兵が一発の弾丸を日本の戦車に撃ち込みます。しばらく時間が経ってから、再び次の弾丸を撃ちます。またしばしの沈黙があつて、次の弾丸を・・・と。すると戦車の操縦者がいらいらしたあげく、そのうっとおしさの原因をつかもうとして、周囲を見回すために頭を出します。この瞬間、次の狙い済まされた一発が彼の最期を告げるのでした。装甲の中に隠れている限りは、彼は完全に安全なのです。私たちの策は彼を外へとおびき出すことでした。同様に、サタン誘惑も私たち自身をおびき出すことです。私たちが隠れ場から出て、キリストの覆いから動き出し、自分自身に頼る状態に陥るならば、ただちに勝利を得ることをサタンはよく知っているのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(6月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

6月30日

肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているのです、あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです。-ガラテヤ5:18

ここに言われていることを注意深く考えてください。私たちの内の“肉”は私たち自身に敵対するのではなく、神の聖霊に敵対するのです。そこで肉の疼きを処理するのは、私たちではなく、聖霊です。その結果はどうでしょう？「あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです」。私たちはしばしばこの節の後半の重要性を理解し損ないます。私たちが生まれつき「したいこと」とは何でしょうか？それは神聖な御旨を軽視し、私たち自身の本能によって導かれる行動へと陥ることです。それに対して、キリストの覆いから逸脱することを拒絶し、自分自身の意志による活動から離れることは、神の聖霊が自由にご自身の御業をなすことができる結果となるのです。それはすなわち私たちの内の肉を処理し、その結果として私たちが生まれつきしたいと思うことをしなくなるのです。私たち自身の計画と歩みから離れることにより、神の完全なるご計画にあって歓喜を見出すことができるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想